

K C I ギャラリーにおける過去の小企画展

*すべて京都服飾文化研究財団主催

会期	展覧会名	概要
2000. 6.1-7.31	ウォルト展	K C I ギャラリー開設記念展。19 世紀、パリ・オートクチュールの基礎をつくったシャルル=フレデリック・ウォルトの衣装の展覧。
2000.11.13-12.22	<KCI が選ぶ>20 世紀ファッション・ベスト 10	21 世紀を目前に、K C I は 20 世紀ファッションを突き動かした 10 の項目を選出。20 世紀ファッションを再検証。
2001.6.1-7.31	パワー・ドレッシング -1980's ファッション-	女性がパワフルに社会に進出した 1980 年代、当時働く女性として「パワー・ドレッシング」を体現した小山寿美代氏、芳村真理氏の寄贈品を中心に構成。
2001.10-1-11.30	メイド・イン・ジャパン -明治の輸出品-	鎖国を解き、近代化へと邁進を始めた日本は対外貿易に乗り出す。明治期に日本から西欧に輸出された絹製品を中心に展示し、日本の輸出初期の状況とその背景を探求。
2002.1-15-2.15	衣装展の舞台裏 - KCI 収蔵衣装の補修・修復 -	衣装展を舞台裏で支えている補修・修復の技法と過程を、修復され蘇った収蔵品と共に紹介。
2002.3.1-5.17	服に染められた花 -19 世紀のプリント・ドレス-	19 世紀、技術的進歩を背景に、西欧のプリント産業は飛躍的に発展した。1830 年代から 1870 年代の花柄のプリントのドレスを出展。
2002.9.2-10.31	アール・デコのデザイン -靴のヒール-	1920 年代の重要なファッション・ポイント、靴のヒールを中心に展示。当時の新しいデザイン様式アール・デコがファッションに及ぼした影響を検証。
2002.11.21-12.20	KCI コレクション - 『ファッション』出版記念 -	K C I の収蔵品約 400 点を掲載した『ファッション』(タッシェン社)出版記念展。掲載作品の中から、未出展の作品を中心に展覧。
2003.3.3-5.30	ポップ・ファッション	1950-60 年代、大衆消費の到来と共に生

		まれたポップ・アートは、ファッションにも強い影響を与えた。当時のファッションと、ポップ・アートに影響を受けた20世紀末の作品を展示。
2003.9.22-11.28	男のおしゃれ -18世紀から19世紀のジレ-	ジレは男性のおしゃれの重要なポイントであった。フランス革命前の豪華な刺繍のジレから、革命後に誕生した市民社会を背景に流行した縞柄のジレまでを展覧。
2004.10.25-12.24	The Art of Chanel -ココ・シャネルの仕事-	シンプルで機能的な作品を発表し、20世紀の新しいエレガンスを生み出したシャネル。その活動において最も重要な時期にあたる1920-30年代の作品を紹介。
2005.3.28-5.27	ファッションはファッション -小山壽美代氏寄贈品展-	高島屋で活躍する小山壽美代氏からの受贈を機に開催。同氏が着用した1990年代前半のロメオ・ジリとマウリツィオ・ガランテの作品を中心に構成。
2005.10.26-12.23	英国紳士のエレガンス &キッチュ -ポール・スミス寄贈品展-	ポール・スミス・ジャパン社よりポール・スミスの紳士服を受贈したことを機に開催。20世紀後半「男らしさ」という観念が問い直されるなか、紳士服に多様な色や柄を復権させたスミスの功績を展覧。
2006.6.12-7.28	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 -第1回 ローブ・ア・ラ・フランセーズ-	出展作品やその時代背景を解説するレクチャーを中心としながら、KCI コレクション集『ファッション』の掲載作品や未公開作品などKCIの代表的な衣装をみる連続企画の第一回。18世紀のローブ・ア・ラ・フランセーズを展示。
2006.9.11.-29	西尾美也展	コミュニケーション・ツールとしての衣服の可能性を探り、新しい表現を形にしてきた若手アーティスト、西尾美也の新作展。
2006.11.6-12.22	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 -第2回 革命のファッション：エンパ	19世紀初頭、大きく転換したファッションは、フランス革命による社会体制の変化、新しい美意識、産業革命などの要因を背景にしていた。当時流行した白い木

	イア・ドレスー	綿製のドレスを出展。
2007.1.16-2.9	洋服にあらわれた日本の文様	19世紀後期から20世紀初期に西欧で流行したジャポニスム（日本趣味）を背景に出したファッション、特に西欧の衣服に見られる日本の文様に焦点をあてた。第12回ミュージアムロードに協力したもの。
2007.3.5-4.30	シャネル・ヴィトン・ジバンシィ ー近年の寄贈品からー	2000年以降にKCIが受けた寄贈作品のなかから、ジバンシィ、ルイ・ヴィトン、シャネル各社から受贈した作品を紹介。
2007.6.15-7.31	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 展ー第3回 ロマンティック・スタイルー	1820年代から30年代、コルセットによる細いウエストが復活。袖やスカートは膨らみ、華やかな色彩や模様も復活した。ロマン主義華やかな時代の服飾を展示。
2007.11.5-12.26	連続企画『ファッション』のもう一つの読み方 展ー第4回 エレガンスの帝国:クリノリンとバツスルー	文学や音楽など様々な芸術分野でロマン主義が熱を帯びた1830年代、ファッションもその流れに呼応した。細いウエストとベル型のスカート、大きく膨らんだ袖を特徴とするドレスを出展。
2008.3.24-5.30	1980年代の色とかたち ーアンヌ＝マリー・ベレッタとポピー・モレニ	近年、寄贈を受けたベレッタ、モレニ両氏の作品を通して1980年代の「色彩」と「造形」の特徴を探る。
2008.10.14-2009.3.31	収蔵品紹介 1	KCIの収蔵品から19世紀後半の下着とドレスを出展。
2009.10.1-2010.2.26	収蔵品紹介 2	上半身に密着したボディスやジャケットを中心に1980年代以降の作品を出展。
2010.3.15-7.30	収蔵品紹介 3 18世紀の髪型	18世紀の衣装とパネル展示。18世紀の髪型に焦点をあてる。
2010.9.14-12.28	収蔵品紹介 4 印象派画家が見たパリ・モード	印象派の画家たちが活躍した19世紀後半から20世紀初頭の衣装作品を出展。
2011.1.17-4.28	収蔵品紹介 5 ヘルムート・ラング	近年、寄贈を受けたヘルムート・ラングの1990-2000年代の作品を出展。
2011.5.23- 7.29	収蔵品紹介 6 頭上の楽園	帽子をテーマに、20世紀の帽子やヘッドドレスを展示。
2011.9.12-12.23	収蔵品紹介 7	コルセットからブラジャーへと移り変わ

	アール・ヌーヴォーと アール・デコの下着	る、アール・ヌーヴォーからアール・デ コ期の女性下着の変化について展示。
2012.1.30-4.27	収蔵品紹介.8 二人のC	20世紀の米国において既制服の普及に大 きく貢献したチャールズ・ジェームスと クレア・マッカーデルの作品を展示。
2012.5.21-7.27	収蔵品紹介 9 トキオの靴	1980年代に活躍した靴デザイナー、熊谷 登喜夫の作品を展示。
2012.8.13-12.21	収蔵品紹介 10 1980年代	1980年代の主流であったボディ・コンシ ヤスなファッションを展覧。
2013.1.28-4.26	収蔵品紹介 11 新収蔵品紹介	新収蔵品紹介展。2011年度および2012 年度の新収蔵品から選出。
2013.5.20-8.16	収蔵品紹介 12 水辺のファッション	1950-70年代の水着に加え、20世紀前半 の水着やリゾート用の衣装を展示。
2013.9.13-12.13	収蔵品紹介 13 靴が語る	KCI デジタル・アーカイブスで公開中の 18世紀から現代までの靴を中心に展示。
2014.1.13-3.14	収蔵品紹介 14 私的空間の装い	19世紀後期から20世紀前期の室内着を 展示。
2014.5.26-8.15	収蔵品紹介 15 百貨店が発信した日本 製パリ・モード	日本の百貨店とパリのメゾンとのライセ ンス契約による、1950-70年代の衣服作 品を出展。
2014.9.8-12.19	収蔵品紹介 16 コルセットの世界	1830-1910年代のコルセットを中心 に、デザインの変遷を紹介
2015.1.19-4.17	収蔵品紹介 17 ファッションとファ ウンダーション	1910-60年代の衣服作品と、そのシル エットを形作った多種多様な下着類を 展示。